

| | |
|----------------------------|---|
| 指定年月日 | 昭和53年4月1日 |
| 指定番号 | 第1号 |
| 種別 | 有形文化財 建造物 |
| 名称及び員数 | 飽富神社及び東照宮 2棟 |
| 所在地 | 袖ヶ浦市飯富2863番地 |
| 略歴 | <p>「飽富神社」</p> <p>社伝によると、第2第綏靖天皇元年に多氏の祖神八井耳命（かむやいみのみこと）によって創建されたといい、現在は倉稲魂命（うかのみたまのみこと）を祭神としている。旧称を飫富神社といい、「延喜式」にその名が見られる上総国5座の一つである。</p> <p>現存の社殿は元禄4年（1691）に再建されたもので、全体として権現造りになっている。なお、社殿の一部は文化年間（1804～1817）に一度修理されているようである。</p> <p>「東照宮」</p> <p>飽富神社境内の北東端にあり、元和8年（1622）4月に旗本天野佐左衛門光得によって久能山から勧請された。</p> <p>現在の社殿は元治元年（1864）に子孫の天野民七郎雄峯により再建された。</p> |
| 指定理由 | 市内でも格式の高い神社であり、延喜式にもその名が見える上総国5座の一つであり、歴史的価値が高いため。 |
| 構造及び形式又は寸法、重量若しくは材質、その他の特徴 | <p>「飽富神社」</p> <p>本殿流造銅版葺き、正面3間、側面3間一尺の両側面に高蘭のある縁が付く。幣殿は正面2間3尺、側面3間、拝殿は入母屋造り、正面5間、側面2間3尺</p> <p>棟札は杉材、表裏にそれぞれ次の墨書銘</p> <p>（表） 卅奉新造立大明神大殿一字所</p> <p>（裏） 元禄四辛未歳卯月二十一日</p> <p>「東照宮」</p> <p>流造銅板葺、正面9尺、側面一間五寸、高蘭付の廻縁</p> <p>周囲に、人獣花鳥等の緻密な彫刻が施される。</p> |



飽富神社拝殿正面



飽富神社本殿（側面から）



東照宮正面



東照宮（横から）



東照宮彫刻



東照宮彫刻